令和4年「牛久市子ども読書活動推進計画（第3次）」案に対するパブリックコメント一覧

	ご意見	回答
1	「市内の子どもの読書活動を推進するため、成長に応じた読書活動を支援し、総合的に子どもの読書環境を整備していこうとする」という目的に向けての様々な施策と、それらについて、統計データに基づく成果や問題点等の分析・検証等の報告、興味深く拝読しました。 関係者の皆様の熱意やご努力に打たれる一方で、少々気になったこともあります。それは、「本が好きではない」子供たちに向けての施策が、言葉として提案されてはいるものの、特性や効果等に関する分析・評価がきちんとなされていないことです。 （計画案4～6P、20～21Ｐ一部引用　略） 一例として上記に記された「ビブリオバトル」は、小・中・高を問わず、様々な児童・生徒を引き付けているという話を耳にしたことがあります（かなり前ですが、筆者も高校生対象のビブリオバトルの大会に聴衆の一人として参加したことがあります）。その公式サイト（https://www.bibliobattle.jp/home）によれば、「知的書評合戦ビブリオバトルは、誰でも開催できる本の紹介コミュニケーションゲーム。「人を通して本を知る。本を通して人を知る」をキャッチコピーに全国に広がり、小中高校、大学、一般企業の研修・勉強会、図書館、書店、サークル、カフェ、家族の団欒などで、広く活用」されているということです。ポイントとなるのは「コミュニケーションゲーム」という点でしょう。どんな本、どんな方法で紹介されるのかわからない、聴衆（参加者）が読書好きである必要は全くない、ルールを守れば自由な質疑応答が可能である……等々、年齢や立場も超えて楽しめる「ゲーム」です（読書がスポーツに変わり、本を読むのが楽しくなるゲームという評価もあり）。近隣の県や地区町村での開催例などを参考にし、「本が好きではない」子供たちを含め　様々な人たちに向けての方策の一つとして、可能性等を探索・調査する価値は十分あると考えます。	ビブリオバトルについて説明をするとともに、どのような効果を狙ったものであるかを表現する文言を追加いたします。

2	子供と本をつなぐために必要なことは、子供に本を渡して「読んでおいてね」ということではない―それは、文字の読めない小さい子だけでなく、小学校くらいまでの子にも言えることです。そのために必要な手段として、大人が本を読んで聞かせる「読み聞かせ」が大切である、と考え、図書館と小学校で読み聞かせの活動をしています。活動していて、家庭においても教育機関においても読み聞かせは現場まかせであると感じます。先生方もお父さんお母さんもとても熱心ですが、それは個人の努力によっているようです。特に子育て世代は忙しく、負担に感じる方、手がまわらない方も多いように見えます。 図書館では、コロナ制限下でもおはなし会は継続されました。その姿勢は素晴らしいと思います。ですがそこへ参加させるかどうかも家庭の責任でありご家族の判断に任されてます。 より楽な形で、読み聞かせに接する機会が増えることを希望します。図書館の方が市内の保育園などに本を読みに行くこともあると聞きます。おはなし会の出前のようなものでしょうか。ボランティアの力を活用して、保育園や児童クラブなどでできないものでしょうか? これは図書館だけのことではなく、各教育機関の多くに関わることだと思います。広く、ご理解ご検討いただきたいと思います。	本計画期間中に保育園等の各施設における「おはなし会」需要がどの程度あるか調査するなどして、検討してまいります。
3	海外の読書事情を調べたところ、「娯楽のための読書」（Reading for Pleasure）というサイトが多かった。読書には、大別すると「娯楽のための読書」と「情報収集のための読書」があると思うが、「牛久市子ども読書活動推進計画（第３次）」の素案では、「読書」の定義を明らかにして、「情報収集のための読書」を含めてもらいたい。また、中学校・高校において生徒に課題を与えてレポートを書かせる授業がどの程度行われているのか知らないが、もしそれが少ないのであれば、増やして欲しいし、そうすることで読書量が増えるし、大学進学の準備にもなる。	本計画では、「授業における有効的な図書活用の研究」、「図鑑・百科事典等の使い方、調べもの学習指導の計画的実施」、「授業での学校図書館の活用」等の「情報収集のための読書」推進に関する方策も含んでおります。
4	近隣の自治体の図書館のホームページにアクセスしてみたが、稲敷市立図書館の「テーマ別検索」が子供にとって使いやすいサイトだと思う。牛久市中央図書館でも参考になるはずなので、検討して欲しい。 http://opac.city.inashiki.lg.jp/opac/wopc/pc/pages/ThemeSearch.jsp;jsessionid=B111A72EA2650C336BF39D0463D8133C?srv=	参考としてご意見頂戴いたします。

5	小学校の図書館の開館時間は知っていますか？　休み時間に自由に図書館に行けないのです。しまっているので。これでは読めといわれても無理では？　小学校の図書館をまず自由に使わせてあげてほしい	学校図書館は学校ごとに取扱が異なりますが、牛久市ではすべての公立小・中・義務教育学校に一人ずつ学校司書を配置しておりますので、設備管理や新型コロナウイルス感染症の流行等での臨時休館でない限り、児童・生徒は利用できる状況であると認識しております。 お住まいの記載がなかったためご指摘の学校は分かりかねますが、利用できる時間等については、通われている学校へお問い合わせくださいますようお願い申し上げます。
6	【うるさい図書館の日】を作って欲しい。 小さな子供が本を読む時を想像してみてください。面白かったら大声で笑い、分からなかったら質問し、親は感情を込めて声を大小に操り読み聞かせるはずです。 ですが図書館には、【喋らない、走らない、静かにする】ルールがあります。これは完全に大人に向けたルールです。 私には6歳と4歳の子供がいます。4歳の子供はまだ字が読めませんが、絵を見て自分でストーリーを創造し、それを声に出して私達に聞かせてくれます。ですがそれが図書館では出来ません。なぜなら【うるさく】なるからです。子供達は本が大好きです。ですが図書館に行った時子供達に「静かにしなさい」と注意するのがとても心苦しいのです。だって子供達は声に出して、うるさく本を読むのが好きなのですから。 子供達にはもっと自由に本を楽しんでほしいです。だから赤ちゃんが泣いてもOK,子どもたち同士で面白い本について語るもよし、騒いでもOKな日をぜひ作って欲しいです。	ご意見として頂戴し、今後の運営や企画の際に、参考にいたします。

7	○１点目アンケート調査の変更 これまでの調査結果と比較を行うために変更するのは難しいのかもしれませんが、「読書に関するアンケート」は変更されたほうがよいと思います。聖徳大学の片山ふみ先生もしくは筑波大学の鈴木佳苗先生にご協力頂き、質問紙調査を実施したほうがよいと思います。理由は質問紙について以下のとおり問題点があるためです。 ・質問紙は仮説を立て構造化して設計すべきだが、それが行われていない。 ・質問紙の設計が先行研究を踏襲していない（例：選択肢や文言）。 ・読書推進のための実態調査であるならば、読書が好きかどうかは質問として適当ではない。 ・本をこの一ヶ月に何冊読みましたか？という問いでマンガ雑誌を除いている理由が不明で、 かつ電子書籍について考慮されていない。 ・あなたは休み時間や放課後に、学校図書館へ行きますか？という問において、 そもそも学校図書館が開館しているかどうかが書かれていない。 また、学校図書館への利用だけでなく公立図書館の利用も尋ねるべきではないか。 上記問題点についてこれまで指摘されてこなかったことを考えると、読書について専門に扱っている研究者による質問紙調査の実施の必要性を強く感じます。	本計画におけるアンケート調査は、乳幼児を除き、児童・生徒が自分で回答する内容となっております。一番低い年齢ですと小学校2年生で7歳～8歳の児童になりますので、平易な内容・表現を心がけて作成いたしました。 また、ワーキング委員会議においてアンケート内容の刷新も議論されたところですが、同じ設問でのアンケートを年齢ごとに実施すること、経年変化を見ることに意義があると考え、前回とほぼ同じ内容でアンケート調査を実施いたしました。 マンガ・雑誌を除いているのは第2次計画時と同条件にするためであり、電子書籍については、ワーキング委員会議での協議の結果、紙の書籍と同様の扱いにするとし、数に含めてよいとしています。 公立図書館の利用頻度についての設問も設定してございます。
8	○２点目１７ページから１９ページにある「家庭」について支援の具体化 18ページ以降の方策にある「○読み聞かせの実施」と「○読書に親しむ保護者の姿勢」「○家庭の中に本がある環境づくり」「○家族での図書館利用」「○読書活動行事への参加」「○読書手帳の活用」については、市が行う方策ではなく家庭が行う方策について書かれています。家庭が行う方策については、市が支援をする姿勢で計画に盛り込まれているのであれば違和感はありませんが、18ページ9行目に"保護者に対して、読み聞かせや読書の重要性について理解と促進を図るための啓発・広報活動を行い、さらに各関係機関が連携・協力し、家庭での取り組みを支援していきます。"と書かれているのにもかかわらず、支援については言及がありません。読書手帳の活用部分が支援と言えるかもしれませんが、書きぶりが支援ではなく指導的立場からの表現です。支援について具体化いただきますよう要望いたします。	家庭での読書は、直接的な行政の関与が難しい部分になります。そのため、家庭での子どもの読書を推進していくために、市の取り組みを知っていただくための広報や、保護者への指導を行うことが支援になると考えております。
9	○３点目国の第6次「学校図書館図書整備等5か年計画」への言及 国が財政措置を行って推進している事業について、21ページから25ページの読書推進計画のなかに盛り込んでいただきますよう要望いたします。	学校司書の配置等、国が財政措置を実施している事業の助成要件に牛久市が合致しないため、今回の計画への反映は見送りいたします。